

# 隨泉寺寺報

2001 年 12 月号

第 376 号

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

報恩講法座

講師 千暁寺住職 日下正実師

講題 「正信念仏の道」

大漁

朝焼小焼だ 大漁だ 大ば鯛の 大漁だ 浜は祭りのようだけど  
海のなかでは 何万の 鯛のとむらいするだろう (金子みすず)

悲観とは見えないものへの想像力である。ただし、見下すことでも見上げることでもない。重たい悲しいものへの比重の掛け方である。それは人間のやさしさとしかいいようがない。殺す側の論理と殺される側の論理。理屈ではこうなるであろう。ニューヨークでは突然の同時多発テロで、4000人を越す人々が悲劇の死をむかえた。家族や知人の涙を忘れられない。こんな理不尽な暴力は許されないとアメリカは報復を誓い、空爆を開始した。今度はアフガニスタンで沢山の人が逃げ惑い、無残な死がそこにある。子供達は食料が無くて餓死している。どちらにも理屈も理由もあるのだろう。しかし、人間のすることは、自分の理屈でしかない。いつも正しいのは自分である。全ての本質を見抜くちから、それこそが仏様のまなざしである。その眼差しは、穏やかで優しい、苦悩を見逃さない慈悲のまなざしである。この眼を持つ者を心の豊かな者というのではないか。金子みすずは悲しみをとおして仏様のまなざしを伝えてくれる詩人である。

## 12月の法座予定

- 12月14日昼席午後1時より……報恩講法座
- 12月14日夜席午後7時半より……出張法座 鴨ノ巣 迫 雅征氏宅
- 12月15日朝席午前10時より……報恩講法座 **お齋があります**
- 12月15日昼席午後1時より……報恩講法座

星に願いを

鎌田哲成

獅子座流星群とやらが出現しました。18日の夜2時ごろから、まさに降るように流れて来ました。ちょうど お月様が新月で、星が本当にきれいに見える夜でした。寒さに耐えながら見ていると、2時前後から次々と現われて、パアと輝いて感動的でした。流れ星に願いをこめると云うことですが、一分間に幾つでも現われるのですから願いは思うがまま...?この流れ星の大群は、すい星のしっぽから取り残された、小さい宇宙のゴミのようなもので、普段は見えないものなのです。しかし毎年この時期に、このゴミの近くを地球が通過するので、地球の引力で落ちてくるそうです。ほとんどが燃え尽きて、地球の上には落ちて来ません。暗闇の中で光があたっていない時は、チリのように目に見えないので、気にもかけられないのですが、いったん脚光を浴びると、光り輝いて人々を楽しませてくれる。

このあいだテレビを見ていたら、我が家のお宝発見と云うような番組で、古い倉の中から、坂本竜馬の手紙が出てきたそうです。その手紙は100年間はただのほこりをかぶった古い手紙だったわけですが、今は歴史の証言者として大変な価値を持つてくるのです。光があたると輝きだすのです。

お浄土は**ひかりのくに**といわれています。**ひかりのくに**であると云うことは、そこに至れば、どんなものも命を得て光り輝くのです。無意味な役立たない存在はなに一つ無いのです。愛憎も我執も、病も別離も、貧困も罪悪も、光に会うならば、そのものが光り輝くのです。阿弥陀様の本願に遇えば、本願の光に照らされて、あらゆるものが、いきいきといのちを得て、光かがやくものに変えられるのです。

光雲無碍如虚空 一切の有碍にさわりなし  
光沢かむらぬものぞなき 難思議を帰命せよ  
慈光はるかに かふらしめ ひかりのいたるところには  
法喜をうとぞ のべたもう 大安慰を帰命せよ

浄土和讃

ありがとうございます。

特別永代経	一金 五万円也	米広	徹	様
特別永代経	一金 五万円也	勝部	潔	様
門信徒会	金一封	米広	徹	様

## 門徒の条件（一年に一度はお寺に参りましょう。）

霊山勝海

門信徒の数は、全国で幾百万とか、あるいは一千万とか言われます。数え方にもよると思いますが、それほどにぼう大な人々が真宗の門徒としての意識をもち自覚をもったなら、そのエネルギーは莫大なものでありましょう。しかし、先の数字の中には、自分は無宗教者だと思ったり、所属の宗派名を知らない人も、少なからず含まれているにちがいありません。

門徒であることの条件は、いったい何でしょうか。思いつくまま、その条件となりそうなものをならべてみましょう。

先祖からの門徒で仏壇があり、仏事には真宗のお坊さんを招く。仏壇にお参りして念仏を称える。日曜学校・仏青・仏婦・仏壮などの会員である。教団の維持金を負担している。法座に出席して聴聞する。年に一回、自宅で報恩講をつとめる。寺に門徒として登録されている。形式的なもの、内容的な条件を無造作に羅列しました。

これらの条件の総合の中に真宗門徒の姿があると思いますが、いま真宗門徒としての最低の条件を指摘しておきましょう。

私が尊敬する布教家のF 師は「わたしは、常々、門徒の方にはっきり宣言しています。三年間、一度も寺に参らんかったら、葬式には行かん。よそでももらいなさい。老いも若きも、働いているものも例外なしです」と語られました。これを聞いて、門徒の葬式にも行かんなど何と横暴な住職だとお考えでしょうか。もしそうとるなら、余りにも皮相です。

朝、元気で学校に、職場にと出かけたものが、交通災害でつめたい屍となって無言の帰宅をする例は、ニュースで連日のように告げられるところです。仕事の鬼のように働いていた一家の柱が、思いもかけず病気に倒れる事例も少なくはありません。無常の風が吹き荒れている人生を生きているのですから、いつ、どこで、どんな災難にあって命を失うか保証されないのが私です。

門徒をあずかる住職としては、人間として生れながら、仏法を聞くこともなく、両手を合わせて念仏することもなくして、この世の命を終わらせることは、絶対に出来ないのです。だれが何といおうと、首に綱をつけて引いてでも、仏法を聴聞させてでなければ、門徒を死なせるわけにはゆかないのです。

はからずも、住職のあるべき姿を語ることになりましたが、これは表裏の関係で、門徒の条件を語ってもいます。おけいごとや学習塾が忙しい子どもにも、仏法聴聞させなければ、親の義務を果たしていません。家業や職場がどれほど多忙であっても、年に一日や二日ぐらい休暇をとっていいではありませんか。お説教を聞きに寺へ参詣しないなら、先祖伝来のどれほど立派な仏壇を安置していても真宗門徒の資格はありません。

合掌

12月には随泉寺の報恩講です。「ひまをかきて」是非ともお参りしましょう。

### お詫び

『随泉寺本堂等修復事業完成記念誌』の中で間違いや記載漏れがありましたので書き加えてください。

115 頁の食事係（庫裡）に**仏婦東長者原役員 門前ヨリエさん**を  
112 頁の委員会名簿に**荒野地区役員 田中義昭さん**を  
書き加えてください。

115 頁の **上杉義明さん 上松義明さん**に

115 頁の **原本千津子さん 原本千鶴子さん**に

116 頁の **佐古忠治さん 砂古忠治さん**に訂正してください。

門信徒会平成14年事業計画の中で出張法座の順番が違っていたので訂正致します。

平成14年 2/14 平原下... 望ヶ丘 3/14 平原上... 高部  
4/14 望ヶ丘... 平原下 5/14 高部... 平原上